

ホーム名：グループホームはるすのお家・阪南					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を心掛け、理念に基づき日々のケアに取り組んでいます。	1階には「笑いと楽しみのある生活になりますように、おはようからおやすみまでいつもそばにいます」と掲示されている。	「笑いの場面が増え、今日は楽しかった。職員さんがいつもいてくれるから寂しくないよ」と具体的な支援で入居者と共有できるよう期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりは一部の職員、入居者様に限られてしまっています。	町内会に加入していない。職員（阪南市民）からの情報で地域の行事を知る。	町内会に加入する等、地域住民との関わりを持つ機会を増やし、事業所の介護サービス等を知らせ、入居者が地域の一員として、安心して暮らし、生活できる支援を地域に伝えていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と協力のうえ、地域の事業所等と連携し勉強会に参加しています。今後、薬局とも地域ケアにむけて話が広がっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等で寄せられた意見を受け取り、良きホームになるように活かしています。	運営推進会議の開催は不定期（年3～4回）委員の参加は家族と事業所のみが多い。家族の参加は7人～8人で穏やかな意見交流ができています。	昨年度の課題でもあった委員への参加要請を行い、2ヶ月に1回の開催に努力されたい。会議録の保存、内容の確認、欠席の委員には報告するなど工夫されたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	ホーム長を中心に市の介護保険課、地域包括支援センター等の担当者と連絡を取り、良い関係を保てていると思います。	事業所運営に関することは日常的に相談でき、連絡しやすい関係にあるが支援内容や入居者の様子は伝えられていない。	地域での認知症に対する理解・認識を高める取り組みを強める立場にある市に対し、事業所でのケア実態を具体的に話し合いできる機会として運営推進会議への参加を提起されたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	ユニットミーティングや職員との情報交換の中で話し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	拘束の経験はないが転倒予防のため車椅子生活の入居者がいる。家族の希望でもある。	訪問中、入居者の動きがほとんど見られなかった。自分の意志で動く、事故に繋がることを心配するあまりに「動かない方が安全」と入居者が思いこまないよう、気持が動いて身体も動く、環境づくりを工夫されたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束となりうる事例をあげ、ミーティング等で話し、防止に努めています。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業を利用している方がいる為、職員の理解を広げています。社会福祉協議会の担当者の方とも連携が取れていると思います。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、不安なく契約を結べる場を設けています。また、後日の不安等に対してもホーム長が速やかに対応するようにしています。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置しています。意見・要望等は記録に残し対応しています。また、家族様が来設の際には声をかけ要望等を聞くようにしています。</p>	<p>電話での連絡、家族の来訪時（週1回から月1回）に声かけができています。管理者スタッフとも連携し家族への連絡を伝え要望等を聞いている。</p>	<p>必要な連絡事項は連絡ノートにより家族に伝えることなどで職員の対応も確認でき、家族からの信頼にも繋がっていると考えられる。来訪する家族も多く、日常的にコミュニケーションがとれていると思われる。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>意見・提案等を大切にし、必要に応じ上司へ報告しています。必要に応じて個別面談も行っています。</p>	<p>管理者はミーティング時や日常業務の中でも意見を聞き、年2回行われている面接でも話す機会を設けている。必要に応じて、上部組織に報告し確認している。</p>	<p>アットホームな雰囲気がある事業所は有資格、経験のある方が多く、密度の高い介護の提供されている。緊張状態継続のため気分転換できる時間確保と環境をつくられたい。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>働きやすい職場作りが出来るようにコミュニケーションを大切にしています。資格手当など、良い結果につながっていない。今後も条件等を整備してもらえようように努めていきたいと思っています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加が難しい為、内部研修を行い良いケアにつなげていきたい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市内の事業者連絡会に積極的に参加し情報交換や交流を図っています。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>信頼関係を築く為にも寄り添う時間を作り、不安を解消出来るように、環境作りにも配慮し関わるように心掛けています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族様のこれまでの悩みや苦悩を聞き、今後の生活への不安や要望等を聞く時間を大切に考えています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族様からの情報だけでなく、本人様との面談等を行い、必要となる支援を検討し対応しています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に生活する家族の一員と捉え安全と一緒に過ごす時間を大切にしています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来設の際には、日々の生活の報告だけでなく、共に過ごす時間を大切にしてもらっています。家族様との信頼関係も大切にしています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会や外出に特に制限は無く、関係を継続出来るよう家族様にも理解を求めています。また、気軽に立ち寄ってもらえるホーム作りにも心掛けています。</p>	<p>月2～3名の面会者がある。家族同伴で外出されることがある。</p>	<p>家族の一員としての外出行動は、入居者にどのような変化を産み出しているのか家族と共有できる機会となるよう今後の支援に期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士が共に関わりが持てるように支援しています。状況にも寄りますが、お互いに声を掛け合う姿が見取れます。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約の終了後も必要に応じて相談等の支援を続こう配慮していますが、積極的には行いません。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに寄り添う事で見えてくる思いに気づき、その人らしい生活となるよう支援しています。	入居者と同じ目線で静かに話されている姿があった。となりにいることで話かけられやすい雰囲気づくりを大切にしている。	居室から見えてくる入居者の生活での変化、集団生活での人間関係等から発露される気持ちを共有できる支援に期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時に家族様より情報をもらい活用しています。また、ご本人様からの話も記録に残し、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に過ごす時間を大切にし、入居者様の状態を記録に残しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状態を把握し、ご本人様の意見、ご家族様の意見を取り入れてケアマネジャーを中心にケアプランを作成しています。毎月のモニタリングや家族様からの要望を聞き、必要に応じてプランの見直しも行っています。	ユニットミーティングは月1回1時間から2時間かけて行われ、入居者支援のための話し合い記録がある。健康管理面で看護師からの助言もある。支援計画も具体化され評価記録もある。	職員が計画プラン内容を聞けば入居者の顔がうかぶ、だれのプランかが解るといふ計画であるよう期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を支援記録として残し、職員間で共有をしています。また毎月のモニタリングにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでの生活を続ける事を大切に考えていますが、状況に応じご家族様と相談し対応出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、またご家族様の協力も得て、地域の中で充実した生活となるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様の希望を尊重し、適切な医療が受けられるように支援しています。ホームとの連携医療機関とも良い関係を保っていると思います。	現在、数名の方が入居前からのかかりつけ医で家族の同行により受診している。定期的に提携医が往診し、看護師も週に2回、来所している。医師による健康管理の報告は、家族に手紙などにより伝えられている。	毎日の健康管理に基づいて家族に入居者の近況を細かく伝えることで家族も安心していられる。これからも医療機関との連携で入居者の生活の安心を支援されるよう期待する。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に一度の訪問ですが、看護師と情報の共有を大切にし、また看護師からの助言もいただき良いケアに繋がっています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>ホーム長を中心に医療機関との連絡も速やかに行うようにしています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けてのご本人様・ご家族様の考えを聞く体制を取っています。状況に合わせて速やかに対応出来るようにしています。看取り指針を作成し、慣れたホームでの看取り介護も行っています。</p>	<p>事業所にてこれまで看取りの経験が数回あり、職員は精神的な面でも経験を積んできている。本人や家族が事業所を終の棲家と思っている時にはその気持ちを共有しようという思いで支援にあたっている。「重度化した場合における（看取り）指針」を用意している。</p>	<p>「指針」にあるように、住み慣れた事業所で、身体的及び精神的ケアや痛みや苦痛を緩和する介護技術を獲得した看護・介護職員により尊厳あるターミナルケアを目指して行かれることを希望する。また、本人、特に家族の気持ちは変化することを考慮しチームとして話し合いを重ねて行きたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の観察ポイント等の対応方法の理解は出来ているが、定期的な訓練は行えておらず、口頭での伝達になってしまっています。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災機器の使用方法は理解できているが、地域への働きかけが出来ていない。行政の意見を取り入れ、ホーム独自のマニュアル作りを始めています。</p>	<p>直近の消防署協働の消防訓練が昨年の4月、昼間1階脱衣場出火想定で行っている。車で2、3分の位置に消防署がある。地震災害においては、市としてまだ避難場所の詳細など決まっていなくて、行政の指示待ちということである。災害備蓄品は現在水だけである</p>	<p>避難訓練は夜間想定で、介護者の人数が少ない時に実際どういう問題が起こるか、木造2階建て家屋であることも考慮して行われたい。地震についても普段から皆が危機意識を忘れず生活したいものである。備蓄品の充実を願う。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、個々に合わせた言葉使いを心掛けています。	フェイスシートや日々の支援の中でその人となりを知ることによって言葉がけにも気をつけていて、職員で共有している。	入居者により見守りの程度が違うので、自立の方のトイレ介助の時のドアの開け方には更なる気配りを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自身の思いを伝えられたり自己決定出来るよう、共に過ごす時間を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活を大切に考えています。共同生活なので決まりもありますが、朝ごはんや入浴時間などは希望に合わせる事が出来ます。散歩や買い物等の支援も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい生活を大切に、おしゃれが楽しめていると思います。ご家族の理解も求めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の手伝いも楽しそうに手伝って下さいます。食事の時間の会話も大切に、職員も共に楽しい時間になるよう心掛けています。	ユニットごとに入居者の意見も入れてメニューを考えて職員と共に食卓を囲んでいる。お誕生日や季節の行事に合わせた食事や、たまには外食も楽しんでいる。医師の助言に従い必要に応じて塩分調整やトロミをつけるなどして体調に合わせている。	食事を共にすることで入居者の食欲、嗜好がわかり、入居者にとって家族のような安心感が得られるものと考えられる。調理中の美味しそうな匂いやみんなで摂る和やかな食事は楽しい時間になっていると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個々の健康管理として、食事・水分量を記録に残しています。必要に応じ医療機関へ報告しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診を始め、個々の状態に合わせた口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄状況に応じたケアを行っています。	個人記録と全員の排泄チェック表により排泄状況を管理しそこから見えてくるパターンをもとに声かけを心がけている。	今後もそれぞれの体調に注意し、トイレのドアの開け方などにもきめ細やかな心遣いをされながら介助を続けられる事を期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況に応じたケアを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	安全で楽しみある入浴となるように支援しています。希望があれば毎日の入浴も可能ですが、安全に配慮し午後入浴をお願いしています。	入浴は、午後の1時半から4時半くらいの間で希望を聞いて週に最低2回は入浴するように支援している。湯は一人ひとり、入れ替え、その都度、掃除している。菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を使用して楽しんでもらうよう工夫している。	入浴は心身共にリラックスでき血液の循環も良くなることで入居者にとって健康感を自覚ができることにもなる。介護者にとっては身体の変化に気づく機会にもなる大切な支援として続けられたい。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や健康状態に合わせて休息や入眠出来るように環境作りに配慮しています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師との連携も大切にし安全な服薬管理をしています。服薬内容もすぐに確認が出来るようにしています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活習慣や状態に合わせて支援を続けています。家事や掃除・買い物などを支援に取り入れています。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物等の希望に応じて外出支援へつなげています。また、思いに気づき声かけをしています。普段行けないような場所へは、ご家族様の協力をお願いしています。	毎日、事業所の周りを何周も歩く事を日課にしている入居者もいる。散歩を促し希望する人には散歩して外気を感じてもらっている。車で近くの神社や「緑化センター」等に行くこともある。	これから外出に適した季節になるので近くに海が望める立地条件を活かして少しでも外に出て外気浴を兼ねて、計画されている園芸を共にする等機会を増やされる支援に期待する。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態や希望に合わせて支援していますが、お金を所持するのは難しいことが多くなっています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご友人や家族様との電話や手紙のやり取りを続けることを大切に考え支援を行っています。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活を送っている入居者様・家族様にとって心地よい空間となるように心掛けています。季節感や生活音は大切にしています。	明るく清潔な居間でそれぞれの過ごしやすい席に座り歌を歌ったり、ゲームをしたり、テレビを観たりしている。壁には入居者の写真や季節の飾り物が貼られている。ソファも片隅に設置されている。	音楽を流して歌を歌うことはとても楽しいことであり昔の歌を思い出して認知症の進行予防にも効果があると思われる。時間を決めて一日の流れに体操を入れたりして変化をつけていただきたい。車椅子から普通の椅子への移乗のタイミングにも気をつけて手足の伸縮など軽い体操を取り入れられることを希望する。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや庭のベンチがありますが、ダイニングのテーブルやイスもみんなが集まり落ち着く場になっているようです。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心した生活を送れるよう使い慣れた布団、たんす、鏡台などご持参して頂いています。ご家族様にもご理解頂き協力をお願いしています。	入居者により、その症状のためあえて家具を少なくしてさっぱりした部屋もあるが、出来るだけカレンダーや時計にも気を配りその人らしい部屋になっている。	衛生的で居心地の良い状態になっている。職員の家族のような温かい見守りで今後も安心して過ごせる個人の部屋としての配慮を継続されるよう希望する。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を見極め、思いに気づき声かけを行っています。当り前の毎日を安全に楽しみある生活となるよう支援しています。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない